

調査研究プロジェクト実績報告書【A 基幹研究】

1. 研究種別：A 基幹研究
2. 研究期間：2021 年～2024 年
3. 課題番号：2021A03
4. 研究テーマ名：研究 I -2-A 『アイヌ語資料のアーカイブ化とその活用に関する研究』
5. 調査研究課題名：アイヌ語資料等のアーカイブ化とその活用に関する基礎研究
6. 研究代表者（氏名、職名）：小林美紀 研究員
7. 研究メンバー（氏名、所属機関、職名）：
中井貴規、国立アイヌ民族博物館、研究主査
深澤美香、国立アイヌ民族博物館、研究員
矢崎春菜、国立アイヌ民族博物館、学芸員
荒田このみ、アイヌ民族文化財団、主任
山丸賢雄、アイヌ民族文化財団、主事
山道ヒビキ、アイヌ民族文化財団、主任
8. 研究協力者（氏名、所属機関、職名）：
9. 交付決定額
令和 3 年度：1,237,000 円
令和 4 年度：1,811,000 円
令和 5 年度：1,492,000 円

研究成果の概要（200 字）

新たなアイヌ語の表現が求められる場面において、近年のウポポイ内外の表現事例は都度参照されている。データを蓄積する必要性は常に生じており、その土台を本調査研究プロジェクトで検討し、今後の公開を念頭にデータベースを整備できた。また、アイヌ語を使用する意義などの発信活動の必要性を感じ、積極的に進めたことにより、ウポポイでの活動を危機言語の保存・継承の取り組みのひとつのモデルケースとして示すことができた。

研究成果の学術的意義・社会的意義（200 字）

アイヌ語作文の際には、より多くの表現が検索できるデータベースが求められている。こうしたデータベースは、アイヌ語の使用を広げることにもつながると考える。本調査研究プロジェクトで試作したデータベースは、使いやすさという点では今後も検討や修正が必要な段階であり、誰もが使いやすいものという理想には届いていないが、今後のよりよいデータベース作成の土台となるものとなった。

* 調査研究プロジェクトは、国立アイヌ民族博物館の研究職員を対象とした内部競争的資金による研究です。研究成果に関する見解や責任は研究者個人に帰属します。

研究分野・専門分野： 言語学、アイヌ語

キーワード： アイヌ語、アーカイブ、言語復興

* 調査研究プロジェクトは、国立アイヌ民族博物館の研究職員を対象とした内部競争的資金による研究です。研究成果に関する見解や責任は研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

アイヌ語は 2009 年にユネスコにより消滅の危機にある言語と位置づけられた。日常生活のなかで使われる機会が失われてきた現状がある一方で、学習者の数は学習手段の増加に伴い、増加傾向にあると推測される。1990 年代には複数の辞典が出版され、さらに 2000 年代以降は、複数の機関により過去に採録されたアイヌ語音声資料の整理及びウェブ上での公開がなされている。そのため、学習者は以前と比較して容易にアイヌ語資料にアクセスすることが可能となった。ただし、こうした資料は 90 年代以前の採録資料が多く、現在学習者が実際に会話や作文をする際に必要となる単語が、アクセスできる資料のなかにはみつからない、あるいはみつかりづらいという事態も多く起こっている。こうした状況の参考となる事例としてハワイ語がある。ハワイ語には新語を決める語彙委員会があり、そこで決まった語彙は新版の新語辞典に各年掲載されている。この辞典はハワイのイマージョンスクール(イマージョン：言語獲得にあたり、その言語環境で学び、その言葉に浸りきった状態になること)のすべての教室に送られ、教師たちに信頼をもって使われている。アイヌ語はこれまでアイヌ語で書く同人誌や新聞などが新語作成の取り組みを牽引してきたものの、ハワイの新語辞典に類似する事例は殆どなかった。新語を用いた意思疎通の負荷や、作文に対する労力の大きさが現代のアイヌ語使用においては重要な課題となっている。

こうした状況のなかでは、①過去に採録されたアイヌ語の音声・映像・文献資料からデータを収集し続け、データ化し、アクセスできる資料の母数を増やすこと、②近年の表現の事例を収集し、データベース化すること、以上の 2 つにより、参考となる用例を参照できるようにすることが必要とされている。

また、現在のアイヌ語学習者の大半は日本語母語話者である。アイヌ語と日本語は語順こそ同じ「主語・目的語・動詞」の順に並ぶ SOV 型であるものの、その文法構造は大きく異なっており、新しい表現や新語を作成する際に、アイヌ語の文法規則から逸脱しないものであるかの判断は日本語母語話者には容易なことではなく、文法研究が必須である。

2. 研究の目的

国立アイヌ民族博物館ではアイヌ語を第一言語としており、2020 年の開館に先立ち、2017 年からその運用方針を検討してきた。また、2018 年度からはアイヌ語解説文やアイヌ語表示に実際に用いる語についての具体的な検討を行った。ウポポイで表示に使用する際には、日本語の単語ひとつにつきアイヌ語はひとつの表現に絞った。例えば、エスカレーターには 4 つの案があり(1. *simoye nikar* 「自動する・はしご」、2. *irura nikar* 「ひと／ものを運ぶ・はしご」、3. *rissinneru* 「波状の道」、4. *kani nikar* 「立派な魔法のはしご」)、そのうち *simoye nikar* が選ばれた。選ばれなかった語のうち検討過程で文法的に問題がないとされたものも、アイヌ語の将来にとっては重要なデータであり、蓄積していくべきものである。また、過去に採録されたアイヌ語の音声・映像・文献資料をデータ化し、参照できる資料としていく作業も今後アイヌ語を運用していくうえで重要である。

* 調査研究プロジェクトは、国立アイヌ民族博物館の研究職員を対象とした内部競争的資金による研究です。研究成果に関する見解や責任は研究者個人に帰属します。

以上のことから、アイヌ語に関する音声・映像・文献からデータを収集するとともに、当館の展示解説等、近年のアイヌ語表現に関するデータを分析・アーカイブ化することで次の3つに貢献することを目的とする。

①アイヌ語学習者によるアイヌ語作文、アイヌ語会話

データベース化することにより、アイヌ語学習者が作文や会話をする際に前例として参照できるようにする。

②危機言語・方言のモデルケース

危機言語・方言の保存や継承の取り組みのひとつのモデルケースとして、世界のほかの危機言語・方言に関する取り組み人びとに対して示せるようにする。

③アイヌ語文法の研究

新しい表現や新語を作成する際には、祈り詞や物語や伝承記録等で事例がある表現であるかに加えて、アイヌ語の文法規則から逸脱しないものであるかの判断が必要となる。当プロジェクトに参加している研究員は、これまでは過去に採録されたデータを整理しながら、分析を行うのが中心であった。今回、新しい表現を作り出すという観点からアイヌ語と向き合うことになるため、これまでとは違う視点に立った分析が進むことが期待される。

3. 研究の方法

本調査研究プロジェクトでは、今後のアイヌ語使用の際に参考となる用例を参照できるよう「過去に採録されたアイヌ語データを収集し、データ化し、アクセスできる資料の母数を増やすこと」、「近年の表現の事例を収集し、データベース化すること」、以上の2点に主眼を置き、以下の5点について主に取り組んだ。

① 過去に採録されたアイヌ語音声からのデータ収集

道東地方のアイヌ語・アイヌ文化に関連する音声のデジタル化を行い、文字化等の作業を行った。また、録音時の背景を知るため、聞き取り調査を釧路市にて実施した。

② 近年のアイヌ語表現のデータ収集

これまで当館の事業で使用してきた「アイヌ語表現・新語検討掲示板 ukoramkor」の内容や、アイヌ語表現・新語ワーキング会議での発言を整理したほか、ウポポイ渋谷公演カムイとアイヌの物語「イノミ」、アイヌ文化交流センター(東京)、アイヌ文化交流センター(サッポロピリカコタン)、道立近代美術館アイヌ工芸品展「モレウのうた」、登別市観光交流センターヌブルを訪問し、近年の他機関等のアイヌ語表現データ(およそ56件)を収集した。

③ データ分析

近年のアイヌ語表現、特にウポポイ開業までに検討した表現について、どのようなパターンがみられるかなどを言語学的観点から分析した。

*調査研究プロジェクトは、国立アイヌ民族博物館の研究職員を対象とした内部競争的資金による研究です。研究成果に関する見解や責任は研究者個人に帰属します。

④ シンポジウムあるいは研究会の参加、発表

当館の事業で3人のパネリストによる公演(1. 手話の事例(神田和幸氏)、2. ハワイ語の事例(大原由美子氏)、3. 言語政策・計画について(大友瑠璃子氏))があった際に、本プロジェクトメンバーが当館およびウポポイの事例について口頭発表を行ったほか、複数のシンポジウムや研究会に参加した。

⑤ アーカイブに関する調査

2000年代以降、複数機関で作成されてきたアイヌ語アーカイブや、他の言語のアーカイブ等を参考とし、使いやすいアーカイブの形式・機能・項目・運用方法等について検討するため、アーカイブを運用している博物館(北海道博物館、沖縄県立博物館・美術館)で調査した。

⑥ アーカイブの作成

大枠については2020年度の研究プロジェクト「アイヌ語表現・新語辞典作成にかかるプロジェクト」で作成したシステムをベースとした。これまで単語レベルの入力にとどまっていたが、アイヌ語あいさつ文等のある程度まとまった文章のデータをスムーズに使用することができるよう目指して作業を進めた。現時点でシステムとしては、文章のデータも使用することが可能となっているが、使いやすさという点では今後も検討や修正が必要な段階である。

4. 研究成果

当調査研究プロジェクトは2021年に開始し、2024年の終了時まで、あるいはそれ以降もウポポイでは断続的に新たなアイヌ語の表現が求められる場面が生じている。そのような場面において、開業までに検討したアイヌ語表示や展示解説文、開業後の特別展示・テーマ展示のアイヌ語あいさつ文など、過去の事例の蓄積は毎回といっていいほど参照されており、こうしたデータを蓄積し、整備する必要性が生じているのは当調査研究プロジェクトで予測していた通りである。そのための土台は出来たので、今後も更により使いやすい形にデータベースを改良し、データ量を増やしていくことが求められている。また、データの参照については、デジタル形式でのデータベースだけでなく、冊子等の誰もが手に取りやすい形式で一般に提示していく必要性も感じている。

また、開始時に想定した以上に、アイヌ語を使用する意義の発信の必要性を感じ、それにも取り組んだ。アイヌ語の使用に関し、ウポポイ来園者の反応は好意的なものもあった一方で、否定的なものもあった。本調査研究プロジェクトメンバーはアイヌ語を使用する取り組みに意義があると考えつつも、アイヌ語としての「正しさ」とは何かという問題についても常に直面してきた。そこで、当調査研究プロジェクト開始時に意識していた以上に、アイヌ語を使用していくことの意義や、悩みながらもまずは使ってみるという姿勢を発信していく必要性を感じ、そうした活動についても積極的に進めてきた。当初危機言語・方言の保存や継承の取り組みのひとつのモデルケースとして、世界のほかの危機言語・方言に関する取り組む人びとに対して示せるようにしたいと考えていたが、発信に取り組んだことによりこの点は達成できたと考える。

こうした成果の発信は複数行ったが、代表的なものとして、第3回テーマ展示「ウアイヌコロ コタン アカラ ― 民族共生象徴空間(ウポポイ)のことばと歴史 ―」や、雑誌『ことばと社会』23-

25 号への寄稿、書籍『ウアイヌコロ コタン アカラ ウポポイのことばと歴史』への執筆などがある。

5. 研究成果の発信

第3回テーマ展示「ウアイヌコロ コタン アカラ — 民族共生象徴空間 (ウポポイ) のことばと歴史 —」の第二章「ウポポイのアイヌ語」において、ウポポイ開業までにアイヌ語解説文やアイヌ語表示について行った検討方法や議論の過程などを例を用いて具体的に示すとともに、全 115 のアイヌ語表示を写真とともに紹介した。

また、2022 年 11 月に矢崎が National Taiwan Museum (国立臺灣博物館) で行われたシンポジウム“Museums As Polyphonic Spaces: Asia-Pacific Models (tentative)” Virtual Symposium 「博物館多声道」 線上国際論壇にて“Ainu language challenges at Upopoy: National Ainu Museum and Park”と題し、ウポポイでのアイヌ語に関する取り組みをアイヌ語を主体として講演した。

雑誌『ことばと社会』23 号では、当館のアイヌ語解説文についてと、中井の国際学会でのアイヌ語での口頭発表の事例について、深澤と naakay(中井)が寄稿した。また、24 号では、ウポポイで行っているアイヌ語体験プログラムについてニヌム(荒田)とケニ(山丸)が寄稿した。続く 25 号では第3回テーマ展示「ウアイヌコロ コタン アカラ — 民族共生象徴空間 (ウポポイ) のことばと歴史 —」の展示と前述の矢崎の国際シンポジウムでのアイヌ語での口頭発表の事例について、小林と矢崎が寄稿した。

書籍『ウアイヌコロ コタン アカラ ウポポイのことばと歴史』には、山道が伝統芸能の継承と復興について、山丸が自身や家族がポロトコタンで働いてきたことを踏まえウポポイが出来たことの意義について、小林がアイヌ語表示について、深澤がアイヌ語の解説文について、それぞれ執筆している。

6. 主な論文発表・成果物等

〔雑誌論文〕

・深澤美香・naakay (中井貴規), 「連載報告 多言語社会ニッポン アイヌ語: an=kor itak ani an=kor puri an=eisoytak (私たちのことばで私たちの文化を語る)」, 『ことばと社会』23, 2021 年, 241-257, 査読無(執筆依頼有)

・ニヌム(荒田このみ)・ケニ(山丸賢雄), 「連載報告 多言語社会ニッポン アイヌ語: pirka! BINGO a=ki ro. upopoy otta aynu itak ari ci=ki p [ウポポイのアイヌ語体験プログラム「ピリカ! ビンゴアキロ」]」, 『ことばと社会』24, 2022 年, 241-254, 査読無(執筆依頼有)

・小林美紀・矢崎春菜, 「連載報告 多言語社会ニッポン アイヌ語: ウポポイ オッタ アイヌイタク

* 調査研究プロジェクトは、国立アイヌ民族博物館の研究職員を対象とした内部競争的資金による研究です。研究成果に関する見解や責任は研究者個人に帰属します。

アエイワンケ ヒ チェイソイタク〔ウポポイでのアイヌ語の取り組みを語る〕, 『ことばと社会』25, 2023年, 211-227, 査読無(執筆依頼有)

〔学会発表〕

・矢崎春菜, Ainu language challenges at Upopoy: National Ainu Museum and Park, “Museums As Polyphonic Spaces: Asia-Pacific Models (tentative)” Virtual Symposium 「博物館多聲道」 線上国際論壇, 2022/11/25, National Taiwan Museum (国立臺灣博物館) / online,招待有

〔図書〕

・小林美紀・深澤美香・山道ヒビキ(オンネレク)・山丸ケニほか, 国書刊行会, 『ウアイヌコロ コタン アカラ ウポポイのことばと歴史』, 2023年, 214頁

〔寄稿・解説〕

- ・矢崎春菜, 「見て見て! 館内サイン④アシニル 化粧室」, 国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」第4号, 2021年, 5
- ・中井貴規, 「見て見て! 館内サイン⑤ウウェネウサラ トウンブ 交流室」, 国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」第5号, 2021年, 5
- ・小林美紀, 「見て見て! 館内サイン⑥イテキ タンパク ク 禁煙」, 国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」第6号, 2021年, 5
- ・中井貴規, 「見て見て! 館内サイン⑦フンタ ホク スウォプ 券売機」, 国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」第7号, 2022年, 3
- ・矢崎春菜, 「見て見て! 館内サイン⑧アスルコロ ウシ: 総合案内、インフォメーション」, 国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」8号, 2022年,5
- ・矢崎春菜, 「見て見て! 館内サイン⑨カンピソシ ヌカラ トウンブ: ライブラリ」, 国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」9号, 2022年,5
- ・中井貴規, 「見て見て! 館内サイン⑩イテキ ウエンプリ コロ: 公序良俗に反する行為の禁止」, 国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」10号, 2022年,7
- ・深澤美香, 「見て見て! 館内サイン⑪アヌココロ アイヌ イコロマケニル: 国立アイヌ民族博物館」, 国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」11号, 2023年,5
- ・小林美紀, 「見て見て! 館内サイン⑫アエキルシ: プラザ展示」, 国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」12号, 2023年,5
- ・矢崎春菜, 「見て見て! 園内サイン①チエトウン スウォプ オマ トウンブ: ロッカー室」, 国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」13号, 2023年,5
- ・中井貴規, 「見て見て! 園内サイン②イアシケウク: 導入展示」, 国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」14号, 2023年,5
- ・深澤美香, 「見て見て! 園内サイン③オプトウイェ/エタイエ: ~を押す/~を引く」, 国立アイヌ民族

* 調査研究プロジェクトは、国立アイヌ民族博物館の研究職員を対象とした内部競争的資金による研究です。研究成果に関する見解や責任は研究者個人に帰属します。

博物館ニュースレター「アヌアヌ」15号, 2024年,5

- ・小林美紀・深澤美香, 第一言語をアイヌ語にするために—国立アイヌ民族博物館の挑戦, artscape, 2022年4月15日号, 2022年
- ・小林美紀, <ウポポイ・オルシペ (56)>園内の案内表示, 北海道新聞
- ・ケニ (山丸賢雄), アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「カッコク」, 毎日小学生新聞, 2023年6月22日
- ・ケニ (山丸賢雄), アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「キテ」, 毎日小学生新聞, 2023年8月24日
- ・ケニ (山丸賢雄), アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「サッチェブ」, 毎日小学生新聞, 2024年1月11日
- ・ナアカイ (中井貴規), アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「クアレ」, 毎日小学生新聞, 2024年1月25日
- ・ナアカイ (中井貴規), アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「マキリ」, 毎日小学生新聞, 2023年7月13日
- ・ナアカイ (中井貴規), アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「マレク」, 毎日小学生新聞, 2023年10月26日
- ・ニヌム (荒田このみ), アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「ニウエオ」, 毎日小学生新聞, 2024年2月22日
- ・ニヌム (荒田このみ), アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「ブクサキナ」, 毎日小学生新聞, 2023年5月11日
- ・ニヌム (荒田このみ), アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「フンベ」, 毎日小学生新聞, 2023年8月10日
- ・ニヌム (荒田このみ), アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「ムンチロ」, 毎日小学生新聞, 2023年11月9日
- ・ヤンチャキ (矢崎春菜), アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「アトゥイ」, 毎日小学生新聞, 2023年7月27日
- ・ヤンチャキ (矢崎春菜), アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「イカラカラ」, 毎日小学生新聞, 2024年3月14日
- ・ヤンチャキ (矢崎春菜), アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「キナ」, 毎日小学生新聞, 2023年4月13日
- ・ヤンチャキ (矢崎春菜), アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「チライ」, 毎日小学生新聞, 2023年10月12日
- ・荒田このみ, アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「アットゥシ」, 毎日小学生新聞, 2022年6月23日
- ・荒田このみ, アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「イヨマンテ」, 毎日小学生新聞, 2023年2月9日

*調査研究プロジェクトは、国立アイヌ民族博物館の研究職員を対象とした内部競争的資金による研究です。研究成果に関する見解や責任は研究者個人に帰属します。

- ・荒田このみ、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「キムンカムイ」、毎日小学生新聞、2022年9月22日
- ・荒田このみ、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「ヤム」、毎日小学生新聞、2022年11月10日
- ・山丸賢雄、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「カムイノミ」、毎日小学生新聞、2022年10月27日
- ・山丸賢雄、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「シリカブ」、毎日小学生新聞、2022年7月28日
- ・山丸賢雄、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「チロンヌブ」、毎日小学生新聞、2023年3月9日
- ・山丸賢雄、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「ブクサ」、毎日小学生新聞、2022年5月26日
- ・小林美紀、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「イタク」、毎日小学生新聞、2022年7月14日
- ・小林美紀、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「イヌイエ」、毎日小学生新聞、2024年3月28日
- ・小林美紀、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「クナウ」、毎日小学生新聞、2023年3月23日
- ・小林美紀、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「サキベ」、毎日小学生新聞、2023年9月28日
- ・小林美紀、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「チセ」、毎日小学生新聞、2022年12月8日
- ・小林美紀、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「ピバ」、毎日小学生新聞、2023年11月23日
- ・小林美紀、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「ルウォブ」、毎日小学生新聞、2023年6月8日
- ・深澤美香、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「イセボ」、毎日小学生新聞、2024年2月8日
- ・深澤美香、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「カムイ」、毎日小学生新聞、2022年5月12日
- ・深澤美香、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「トゥナハカイ」、毎日小学生新聞、2022年12月22日
- ・深澤美香、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「ヌプリ」、毎日小学生新聞、2023年5月25日
- ・深澤美香、アイヌイタク エエラムアン？ アイヌ語してる？ 「プ」、毎日小学生新聞、2023年12月28日

* 調査研究プロジェクトは、国立アイヌ民族博物館の研究職員を対象とした内部競争的資金による研究です。研究成果に関する見解や責任は研究者個人に帰属します。

- ・深澤美香, アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「ベツ」, 毎日小学生新聞, 2023年9月14日
- ・深澤美香, アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「ユク」, 毎日小学生新聞, 2023年2月23日
- ・深澤美香, アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「レブンカムイ」, 毎日小学生新聞, 2022年8月25日
- ・中井貴規, アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「イナウ」, 毎日小学生新聞, 2023年1月12日
- ・中井貴規, アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「オントウレプアカム」, 毎日小学生新聞, 2022年11月24日
- ・中井貴規, アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「カムイチェプ」, 毎日小学生新聞, 2022年9月8日
- ・中井貴規, アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「トゥレプ」, 毎日小学生新聞, 2022年6月9日
- ・矢崎春菜, アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「アベ」, 毎日小学生新聞, 2023年1月26日
- ・矢崎春菜, アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「イランカラプテ」, 毎日小学生新聞, 2022年4月28日
- ・矢崎春菜, アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「コタンコロカムイ」, 毎日小学生新聞, 2022年10月13日
- ・矢崎春菜, アイヌイタク エエラムアン? アイヌ語してる? 「チプ」, 毎日小学生新聞, 2022年8月11日

〔その他〕

- ・ヤンチャキ「ウポポイのアイヌ語サイン紹介(国立アイヌ民族博物館編)」公益財団法人アイヌ民族文化財団(<https://www.youtube.com/watch?v=bfPbXH0BY90&t=84s>)
- ・小林美紀, アイヌ語アーカイブと文法の研究—上田トシ氏の資料を中心に—, アイヌ語アーカイブ研究会, 2022年9月26日, 二風谷生活館
- ・第3回テーマ展示「ウアイヌコロ コタン アカラ — 民族共生象徴空間(ウポポイ)のことばと歴史 —」
- ・矢崎春菜, 小林美紀, 深澤美香, 中井貴規, アイヌの口承文芸～アイヌの物語・世界観・言語～, 茨城県 県北生涯学習センター 後期講座, 2023年10月1日～11月25日(全5回), 茨城県県北生涯学習センター(オンライン), 講師依頼あり
- ・小林美紀, アーカイブの活用と文法研究について, 2023年度アイヌ語研究会 in 二風谷, 2024年1月21日, イオル文化交流センター
- ・中井貴規, 国立アイヌ民族博物館の役割と展示, 2023年度札幌大谷大学「アイヌ文化論」, 2023年

*調査研究プロジェクトは、国立アイヌ民族博物館の研究職員を対象とした内部競争的資金による研究です。研究成果に関する見解や責任は研究者個人に帰属します。

6月14日（オンデマンド方式による講義），講師依頼あり

*調査研究プロジェクトは、国立アイヌ民族博物館の研究職員を対象とした内部競争的資金による研究です。研究成果に関する見解や責任は研究者個人に帰属します。